

# 三小だより

# 11月号

## 読書の好きな子に育てたい

校長 藤本 賀津雄

一年中で最も過ごしやすい秋の季節を迎えました。秋といえば、「実りの秋」「食欲の秋」「スポーツの秋」「芸術の秋」などいろいろな秋がありますが、今年の秋は親子で「読書の秋」に挑戦してみませんか。読書は、自分の知らない不思議な世界を体験したり、過去や未来をのぞいたりすることができます。自分の考えが深まったり、想像が膨らんだりします。私はこれまで多くの子どもたちを見てきましたが、読書の好きな子は、将来伸びる子が多いです。読書と学力には大きな相関関係があります。

読書の素晴らしさは分かるが、なかなか本を読もうとしないという子どもも少なからずいると思います。では、どのようにしたら、本を読んでもくれるのでしょうか。読書が好きという子どもたちに聞いてみると、小さい頃お父さんやお母さんに絵本などの読み聞かせをしてもらった子が多いようです。どの子も絵本などの読み聞かせすると、喜んで同じ絵本を何回も「読んで」と言ってきます。つまり、子どもは勝手に本が好きになるのではなく、大人を通して本の楽しさを理解していくようです。うちの子は、もう読み聞かせの時期が過ぎてしまっているから無理かなと考える方もおられるかもしれませんが、今からでも決して遅くはありません。学校ではボランティアの方々に来ていただいて、毎年すべての学年で読み聞かせをしています。

子どもに本を読みなさいと言うだけでは、なかなか読んでくれませんので、一度、親子で一緒に読書に取り組んでみてはどうでしょう。全文を読み聞かせする方法以外にもいろいろな読書の仕方があります。たとえば、親子で一緒に声に出して読んでいく方法やページや場面で交代しながら親子で読み進める方法もあります。初めは親が読み聞かせを行い、だんだん物語の展開がおもしろくなってきたところで、続きは自分で読ませるという方法もあります。「わあー、ドキドキしてきた。この続きはどうなるのかな」などと言いながら、親子で一緒に読んでいくと、きっと本が好きな子どもになってくれると思います。



小学校の図書室には、今年度から図書館司書の前田先生がおられます。毎月の図書室だよりで、人気本の紹介をしてもらったりしています。休憩時間に図書室の前田先生にどんな本を読んだらいいか相談したらおすすめの本を紹介してくれます。また、図書委員会の人たちが中心となって11月4日～21日を読書週間と決め、読書のイベントを企画してくれています。この秋はおおいに図書室を利用して、読書に挑戦してほしいと思います。